

液晶相を形成した無機ナノシートコロイドの 小角X線散乱による構造解析

宮元 展義 (福岡工業大学工学部 生命環境科学科)

【緒言】 無機層状物質の剥離によって得られる無機ナノシートは極めて異方的な形状(1 nm程度の厚さと最大数百 μmの横サイズ)を有する二次元の無機微粒子である。無機ナノシートコロイドの濃度を上昇させると、ナノシートが配向して緩やかな構造秩序をもつ液晶相を示すことが近年明らかにされてきた¹⁾。しかし、ナノシート液晶の構造や特性を制御する因子や、形成のメカニズムについてはまだまだ不明な点が多く、さらなる基礎研究が必要な状況である。

そこで本研究では $KCa_2Na_{n-3}Nb_nO_{3n+1}$ ($n=3\sim 5$)の組成式を持つ一連の Dion-Jacobson 型層状ペロブスカイトに着目し、ナノシートコロイドの等方-液晶相転移挙動及び構造を検討した²⁾。この系では層の厚みの違う一連のナノシートを得る事ができることが特徴で、さらには光触媒活性等の様々な機能を有しており、応用面からも興味深い物質系である。

【実験】 既報³⁾に基づき層状ペロブスカイト粉末を合成し、酸処理およびテトラブチルアンモニウム(TBA⁺)水酸化物との反応によりナノシートコロイドを得た。偏光顕微鏡と小角X線散乱(SAXS)によって等方-液晶相転移挙動と構造の評価を行った。

【結果・考察】 得られたナノシートコロイド(1~3 wt%)を偏光顕微鏡で観察したところ、全てのサンプルで定常的な複屈折による干渉色が確認でき、また液晶特有のテクスチャが確認された。一方、0.5wt%では定常的な複屈折が確認されないことから、等方相であると判断された。

次に $n=4$ の系で SAXS 測定を行った(Figure 1)。ナノシート濃度 7.18wt%では面間隔約 7.5 nm の膨潤ラメラ構造に帰属される複数のピークが確認された。コロイドから余剰な TBA⁺イオンの除去(試料の洗浄)を行うと、底面間隔は大きく増大し、最大で 122 nm に達した。さらに、コロイドを希釈すると、0.5 wt%で面間隔 195 nm に達したが、これ以上希釈した場合はピーク強度が弱くなり、構造自体が消失した。 $n=3, 5$ の系でもほぼ同様の傾向が見られたが、確認された底面間隔の最大値は、 $n=3$ の系では 112 nm (1 wt%)、 $n=5$ の系では 160 nm (2 wt%) であった。大きな面間隔と高い構造秩序を示した試料では、白色光下で構造色が確認された。

[参考文献]

- [1] Miyamoto, N.; Nakato, T. *Israel J. Chem.* **52**, 881 (2012) (review)
- [2] Miyamoto, N.; Yamamoto, S.; Shimasaki, K.; Harada, K.; Yamauchi, Y. *Chem. Asian J.*, **6**, 2936 (2011)
- [3] Xu, F. F.; Ebina, Y.; Bando, Y.; Sasaki, T.; *J. Phys. Chem. B*, **107**, 9638 (2003).

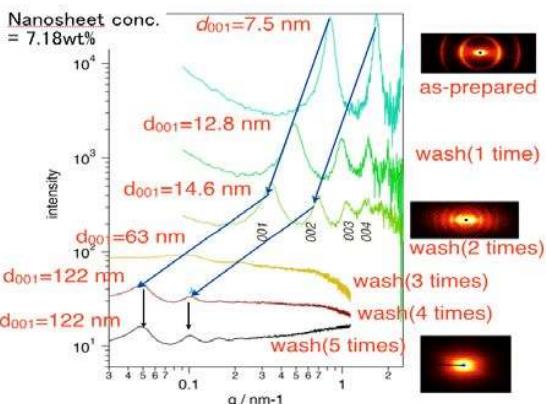
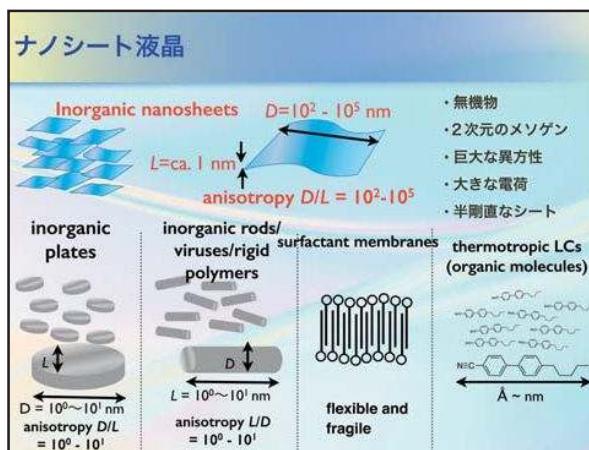
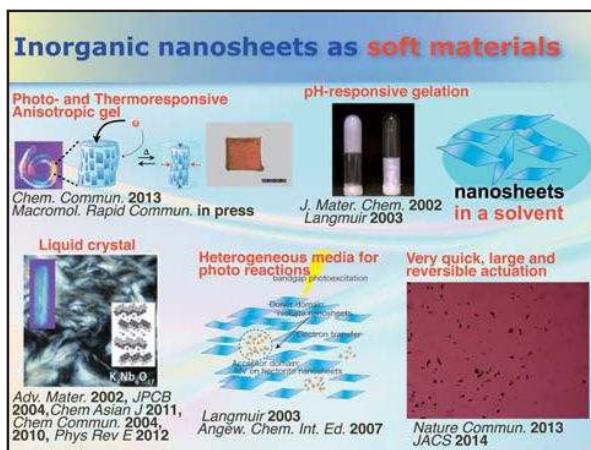
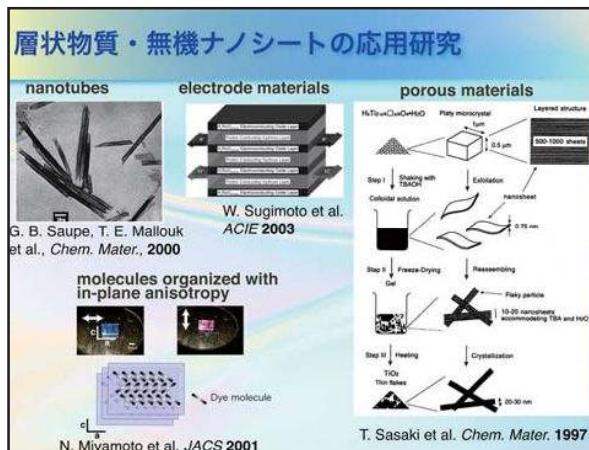
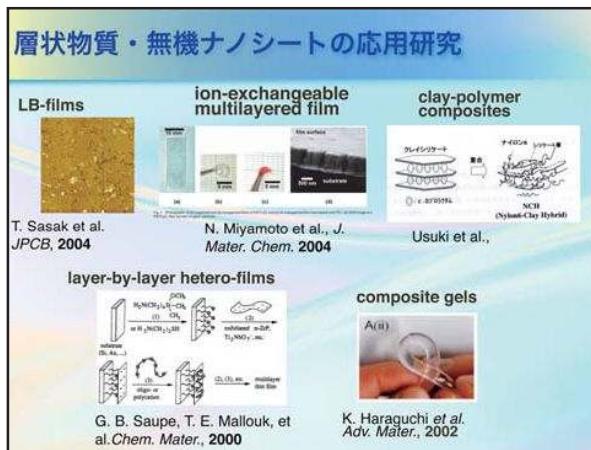
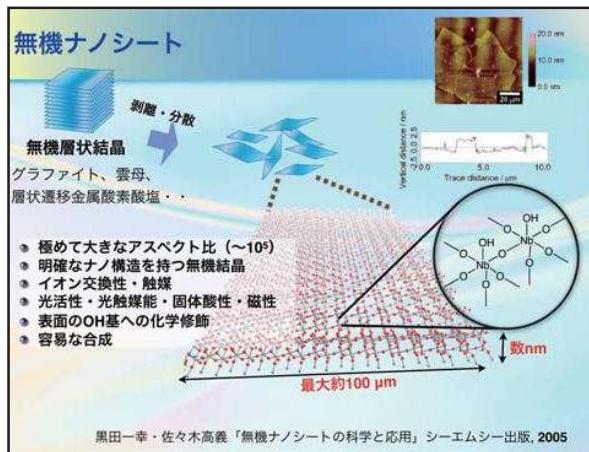
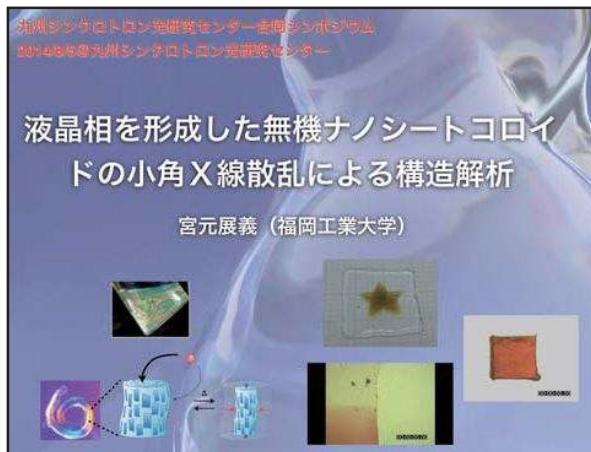
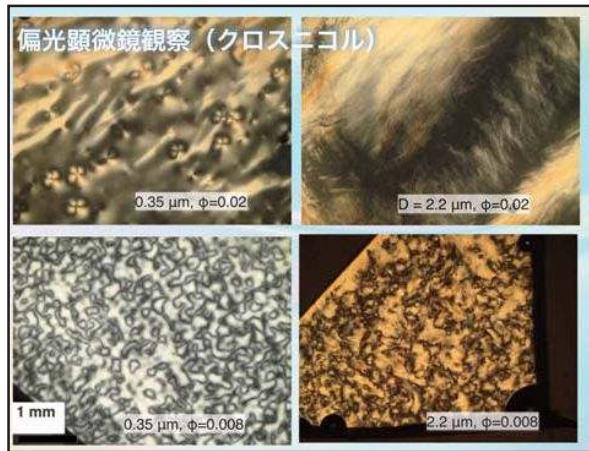
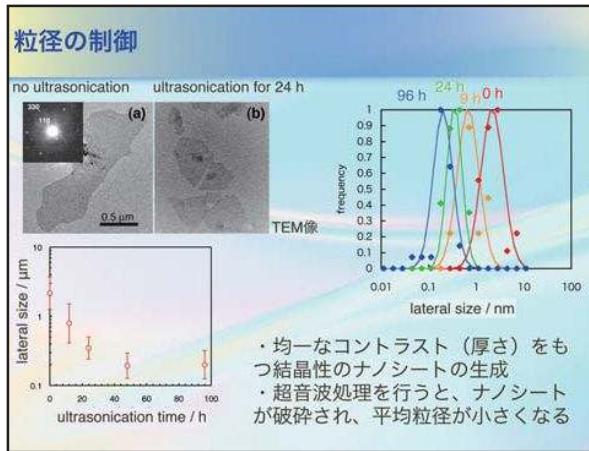
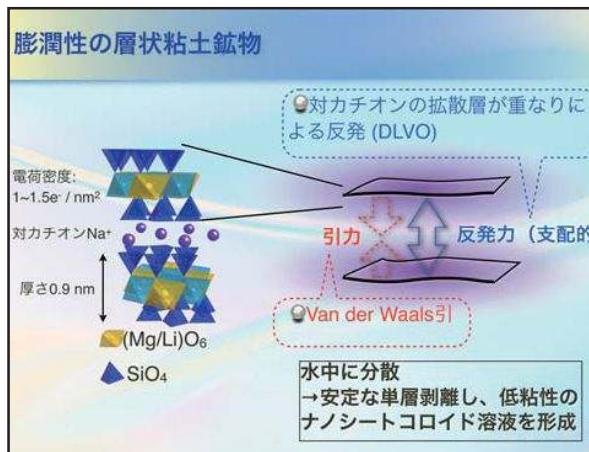
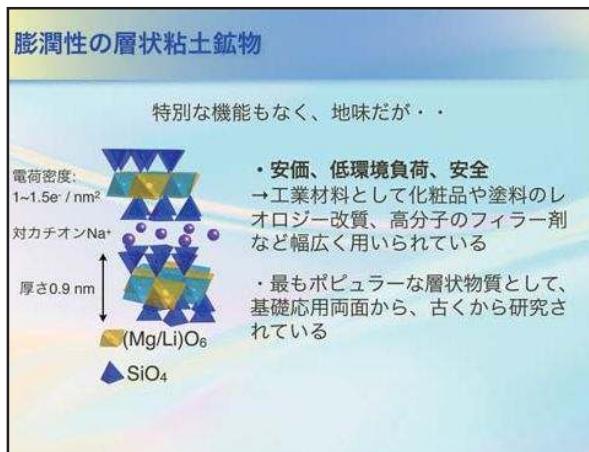
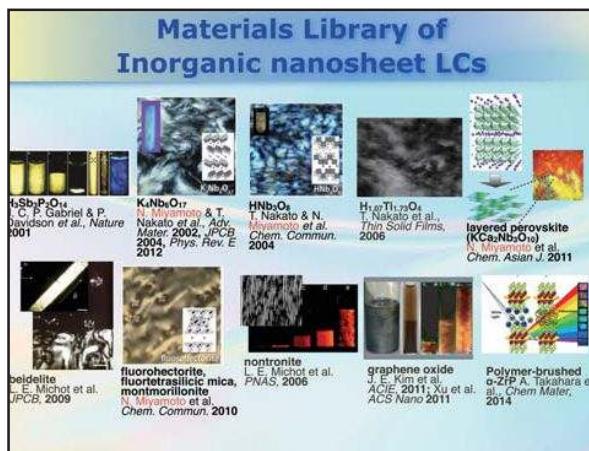
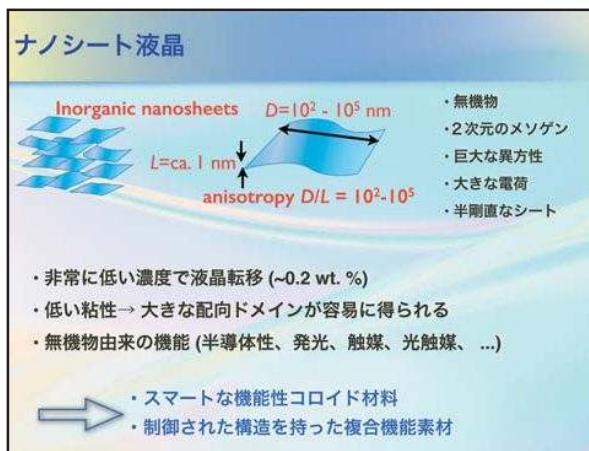
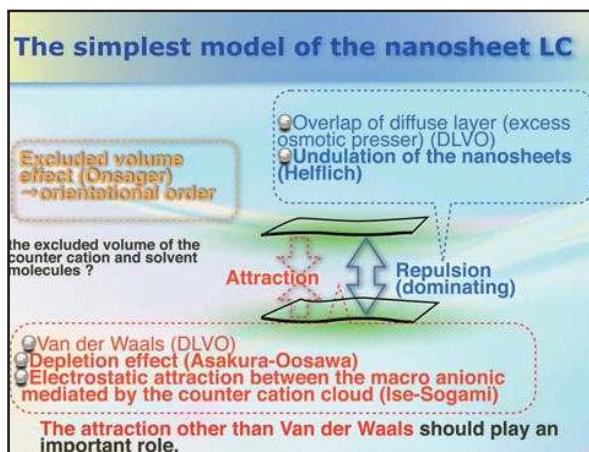
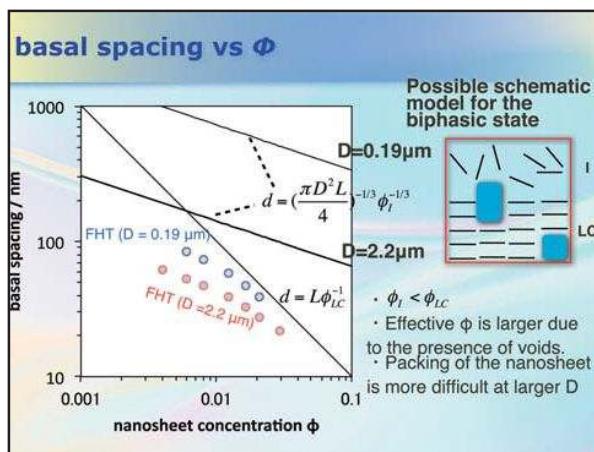
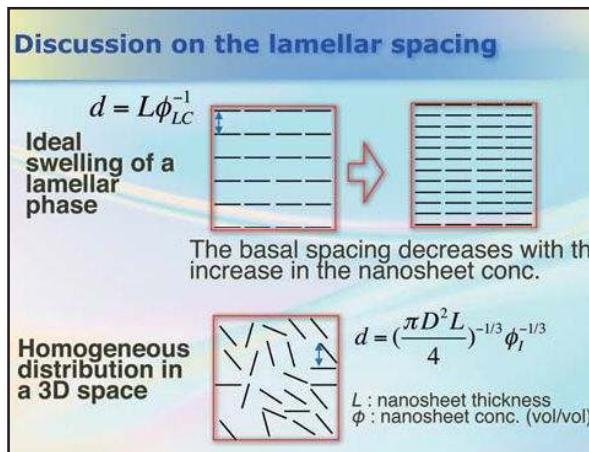
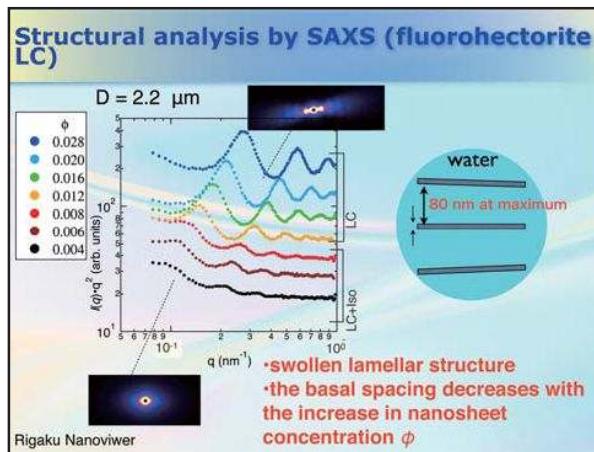
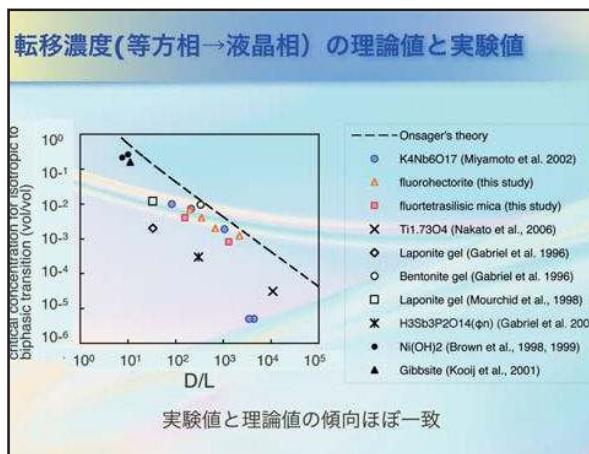


Figure 1. SAXS patterns of the perovskite nanosheets colloids ($n = 4$, 7.18 wt%) in the process of washing (removal) of TBA⁺.







Photoresponsive anisotropic LC/PNIPA gel

The nanosheet LC/PNIPA gel aligned by electric field and patterned by cationic dye shows anisotropic mechanical response to photo-irradiation.

(a)

(b)

Macromol. Rapid Commun. in press

Modification of the nanosheet LC

Many factors are tunable!

- Nanosheet concentration
- Nanosheet property: charge density, chemical composition, thickness, size distribution, surface modification, counter cation
- Solvent: water, organic solvent, ionic liquid, polymer melt, thermotropic LC, ...
- Additives: salt, different kind of nanosheet, polymer, ...

→ Control of phase behavior, LC structure, and function → functional smart colloid and composite materials 😊

However, the preparation is not always straightforward: irreversible aggregation of the nanosheets, yield and purity, ...

Dion-Jacobson type layered perovskite

Here we focus on Dion–Jacobson type layered perovskites of $KCa_2Na_{n-3}Nb_3O_{3n+1}$.

The general compositional formula $M(A_{n-1}B_nO_{3n+1})$ ($n=3, 4, 5, 6\cdots$)

We can choose..

- M:L, Na, K etc.
- A:Ca, Sr etc.
- B:Nb, Ta etc.

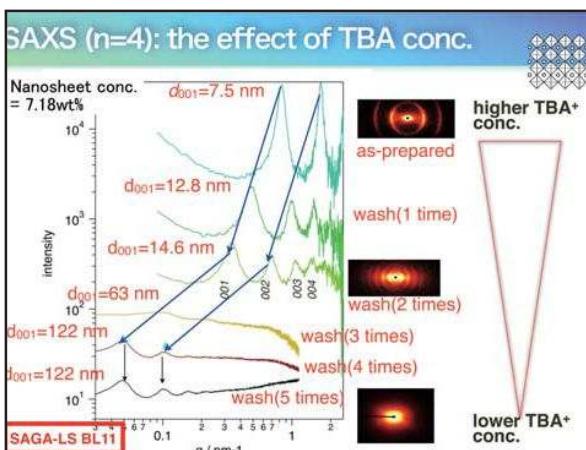
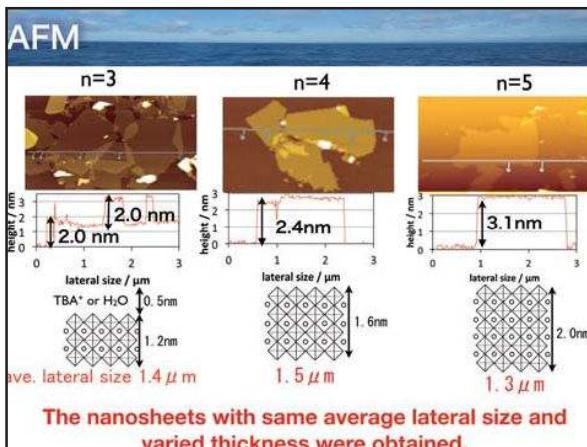
Negatively charged nanosheet $[A_{n-1}B_nO_{3n+1}]^-$

Exchangeable positive ion M^+

Further, various functions such as:

- Photocatalyst
- High dielectric property
- Luminescence properties

$KCa_2Nb_3O_{10}$



まとめ

- 無機ナノシートコロイドが液晶性を示す事を明らかにした。
- 粘土鉱物FHTや層状ペロブスカイトのナノシート液晶は数十～百数十nmの面間隔を持つラメラ構造を有していた。
- 面間隔はナノシート濃度、塩濃度、ナノシートの厚み等によって制御可能である。しかし、詳細な構造形成メカニズム解明には、さらなる検討も必要である。
- ナノシート液晶を利用した、構造色発色や異方性の無機/高分子複合材料などの合成にも成功しており、機能性材料としての応用も期待される。

Financial supports by:

Canon FOUNDATION
The Kay Foundation for Arts and Sciences
Molecular Robotics
科研費 RAKENHEI